

# 第8回天塩川下流減災対策協議会 議事概要

氾濫が発生することを前提として、関係者が連携して減災のための目標・取組方針を共有し、社会全体で常にこれに備える「水防災意識社会」を再構築し、「確実な避難」、「長時間続く洪水から地域を守る」を目指すことを目的にハード・ソフト対策を一体化、計画的に進めており、その取組状況のフォローアップ等を行うため天塩川下流減災対策協議会を開催しました。

日時：令和5年2月27日 15:00～15:50

開催方法：対面・Web（ハイブリット会議）

出席者：留萌開発建設部、留萌振興局、宗谷総合振興局(Web)、天塩町、豊富町、幌延町、北留萌消防組合(Web)、稚内地区消防事務組合、旭川地方気象台(Web)、稚内地方気象台(Web)、陸上自衛隊第26普通科連隊(Web)、北海道警察旭川方面本部(Web)、北海道天塩警察署、JR北海道旭川支社(Web)

## 報告があった取組

- ・堤防整備、河道掘削等の河道整備
- ・防災情報伝達手段の多重化
- ・要配慮者施設における避難確保計画の作成
- ・水害に対応した自治体タイムラインの策定
- ・マイ・タイムラインの紹介、講習の実施
- ・情報伝達訓練、水防技術講習会等の訓練を実施
- ・洪水ハザードマップ、避難情報等の周知
- ・水防資機材の充実
- ・ホームページ等による水防意識の啓発を実施

など



会場の状況



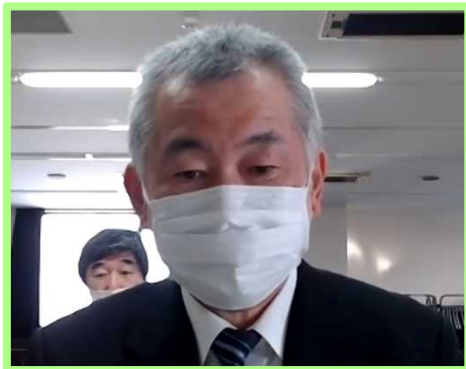
Web参加者と接続状況

# 各構成員のコメント（第8回天塩川下流減災対策協議会）



留萌開発建設部長

- 近年、毎年のように全国各地で、豪雨により氾濫や崖崩れを含めた災害が発生しています。留萌管内でも平成30年7月の大雨で床下浸水などの被害が発生しました。昨年の8月には遠別、初山別方面で既往最大の降雨が記録され、いつどこで大規模な降雨が発生するか分からないことを実感しました。このような背景から、大雨に対する備えを準備することは非常に重要です。
- 洪水に対するハードの対策はもとより、ソフト対策もまだまだ十分とはいえないので、改めて取組の趣旨を確認し、意義のある協議会にできればと思います。



宗谷総合振興局長

- 避難指示を発令する各首長に、いかに正確で的確な情報を提供できるかが大事と思っています。
- 大人の方々は、「多分今回も大丈夫」という正常性バイアスにとらわれがちなので、子供たちへの防災教育や学校の授業の場を活用した防災授業が地域を巻き込んで行われることが大変有効だと思います。
- 災害の専門家から「いざは、普段なり」という言葉をよく聞きます。いざという災害のために、普段の防災対策に取り組まなければならないことを肝に銘じて、北海道も防災対策を行っていきます。

# 各構成員のコメント（第8回天塩川下流減災対策協議会）



天塩町長

- 天塩市街地には道の駅や避難所が整備されているが、雄信内地区では避難所が浸水範囲内に位置しており、課題があります。
- 防災に関する教育や訓練、各種計画の作成・修正、備蓄品の計画的な整備などを継続して、天塩町としての防災力の強化や、住民の防災意識能力の向上に努めていきたいと考えております。



幌延町長

- 近年、大規模な水害等が各地で発生していますが、当町では幸運なことに水害が発生していません。大規模な水害がいつどこで起きるか分からないため、しっかりと水害対策を考える必要があります。
- 令和6年までに防災担当者確保し、自治体タイムライン等も整備していくことを考えています。
- 現在の職員の中には水害の経験者は以前より少なくなっており、災害時の知識不足をどう補うかが課題であります。留萌開発建設部の訓練等に参加しながら、若い職員を災害対応にきちんと充てられるようにしていきます。
- 北海道開発局、近隣市町村及び関係機関と平時から関係を構築し、体制の強化に今後とも努めていきます。



豊富町長

- 留萌開発建設部の協力により、豊富町防災訓練及び一日防災学校でマイ・タイムラインの講義をいただき、有意義な教育、学習の場となり、町民、そして子供たちの防災意識の向上につながりました。
- 取組内容は基本的に本年度をベースとし、さらに拡充していきます。また、実災害を想定した訓練を積み重ねなければ、実際に防災行動はできないと考えています。
- 気候変動により、想定を超える大きな被害が発生しており、流域内の全ての関係者がこれまで以上に連携を図る必要があります。減災対策の推進と情報共有が被害軽減につながると考えています。
- 関係機関の協力を得ながら、今できる減災対策にしっかりと取り組んでいきたい。